

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0690800347		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホームサン・シティ		
所在地	山形県酒田市曙町2丁目28-5		
自己評価作成日	令和3年9月15日	開設年月日	平成27年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍にあっても、事業所、本人とご家族との関係が切れないような工夫や提案をし、感染症対策を講じながらいつもと変わらない生活の継続、メリハリのある毎日を過ごしていただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和3年10月20日	評価結果決定日	令和 3年 11月 12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅や企業が混在する街の中に、多種の介護サービスを備えた複合施設の一角を占めてグループホームがあります。法人基本理念「和」の下に「笑顔溢れる 家(うち)」をグループホーム運営理念として毎年具体的な行動目標を立てて、利用者が生きがいを持って安心した生活を送れるよう支援し日々悩み笑いながら実践に努めています。新型コロナウイルス感染症問題発生以来、家族面会もままならない中で、家族との絆を大事にしてお便りや近況報告で折に触れ連絡を取り、正月には生活の様子を撮った動画をDVDで送って家族に安心感を届け喜ばれています。何よりも利用者を人生の先輩として敬いながら一人ひとりの思いや能力を大事にし、元気で張り合いのある生活を送ってもらえるように取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己外部項目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本とし事業所の理念を掲げているものの、更に意識し行動できるよう管理者が中心となり発信していきたい。	理念を常に意識できるよう廊下に掲示し、面談などでコミュニケーションを図りながら全職員で共有し実践に向けて取り組んでいる。毎年具体的な行動目標を立てて、利用者が生きがいを持って安心した生活を送れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周囲を散歩する際など、すれ違う住民に挨拶をするなど、あえて認知していただけることを期待し行動している。コロナ禍にあるため思うように交流の機会が持てない状況にある。	コロナ禍により今まで行ってきた地域行事がなくなっているが、近隣の商店での買い物や散歩、散歩中の挨拶などで交流している。また地域代表者・民生委員などの方に運営推進会議への参加を得て理解を深めてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービスの利用者をとおし、家族に対して介護のアドバイスをを行っている。また法人の広報誌などにも積極的に投稿し発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策にて書面開催が多くなっている。事故報告なども行い、ご家族の思いを含め客観的なご意見もいただけるため、再発防止に向け取り組むことができている。書面であっても委員全員より意見や評価を返していただくシステムとなっており、参考にさせていただいている。	今年度は新型コロナ感染防止を踏まえほとんどの回を書面での開催としている。活動や事故・次期活動予定などの報告を掲載し、返信用封筒を同封してアンケート様式で意見・感想を聞き、多くの助言や励ましをもらい取組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員に酒田市介護保険課から参加していただき情報交換を行うことができている。	市担当者には運営推進会議メンバーとして報告や相談をし、実状を理解してもらい良好な関係を築いている。また新型コロナに関する情報提供や消毒用品の配布の窓口として感染防止の一端を支えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3カ月1回実施しており、身体拘束にあたる事例がないかの振り返りを行っている。また内部研修を実施しその理解を深めている。	全職員が身体拘束廃止委員会メンバーとして、研修を受けレポート提出やテストで習熟度を確認してその内容と弊害の理解に努めている。利用者の落ち着きがなくなる状態には時間帯や原因を探り、帰宅願望がある方には傾向を事前にキャッチしてついて行くなど、リスクの軽減を図り対応を統一して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画視聴による内部研修を実施。身体拘束廃止と併せて自らの振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人には包括支援センターや特養等複数多様な事業があり情報交換等をはじめとする学びの機会を得ることが可能な環境にあり活用することができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日一度で理解できるご家族は少なく、入所以降も必要に応じて対応している。季節によっては光熱費の費用が高額になる時期もあり、お便りなどを活用しご理解をいただけるよう働きかけなども行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍にあり、以前に比べると直接話をする機会が少なくなっているものの、信頼関係の構築に努め話しやすい状況を作るように努めている。	コロナ禍で面会も制限せざるを得なくなり、受診付き添い時や電話・リモート面会時、メールなどで意見を聞いている。またグループホーム便りと個別の近況報告を隔月で交互に送付し様子を伝え、家族からは感謝の言葉が多く寄せられている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に1対1で話をする機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事評価を行っており、フィードバックしている。コロナ感染症に係る不安の軽減に向け引き続き職場環境の整備に努めていきたい。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にあるため外部研修の機会が確保できずにいるものの、Eラーニングの活用にて内部研修の充実が図れるようにしている。またカンファレンスや会議に於いても必要な知識や技術の習得に向け意図的に情報発信を行っている。	新型コロナ感染防止対策で外部研修を見送り、インターネットを利用して学ぶ「eラーニング」や集合研修を効果的に組み合わせ、ケアの質向上に努めている。また職員の事情に配慮したシフト調整なども行い、働きやすい職場づくりを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	酒田市介護サービス事業者連絡協議会に加入しその機会を確保できるようにしているが、感染症対策により現状はできずにいる。しかしながら同法人の他事業所との交流を積極的に行い刺激を受けることでサービスの向上に結びつくようにしている。	可能な限り外部との接触を避けたため同業者との交流はできなかった。法人内交流では介護サービスが異なる事業所の特徴も知り、学んだことを排泄介助などに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始のタイミングなど、ご家族に相談をしながら調整を行っている。信頼関係の構築については、最初は家族の協力、情報提供なしでは難しいと考えている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階からご家族の困りごとに寄り添う姿勢で対応するようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関との連携も含め適切なサービスの提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者が受け身だけで過ごすことがないように、適宜確認しながら支援できるようにしている。役割を持っていただくこともその一環と考えている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあっても本人とご家族の関係性が途切れないよう、ご家族からも一定の役割をもっていたご協力いただけるよう働きかけている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防対策にて面会や外出の機会が激減しているため、それに代わるような取り組みに努めている。「懐かしい」との思いが蘇るような場所へドライブに出かけたりすることもある。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の個性や考え方を考慮し、馴染みの関係が築けるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に自宅で採れた野菜などを差し入れてくださるご家族がいらっしゃる、その都度その関係性が途切れないようお礼状を出したりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員で普段の会話の内容やご様子から情報を持ち寄り、意向を汲み取ることもある。まだ本人本位に欠ける部分がある。	入居前に本人や家族から生活歴や意向を聞き、日々の関わりで気づいた事や言葉を集め検討会で分析し意向に沿った支援をしている。必要に応じてその方の環境や言葉、行動のメモを大判用紙に項目別に貼り出し、検討するなど個別支援に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、それまでの担当ケアマネからも情報を提供してもらっている。また、ご本人との会話からも生活歴等を情報収集している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活状況を記録し、職員間で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を確認し必要なケアについて職員で話し合い作成している。毎月カンファレンスを開催し、タイムリーに課題解決に取り組んで切る。	利用者の意向を最優先に家族の思いも大事にしながらか介護計画を作成している。課題解決に向けて、生活の中で見えてきた原因を紐解きながら外出や運動、家事などを日課にして生活リズムを整え、役割を担ってもらい安心した生活に繋いでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施できている。パーソンセンタードケアの帳票(D-4シートなど)なども活用しケアの実践に生かせるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>信頼している医者への通院継続、近隣のお店への買い物、いつも行っている床屋さん、など限られた枠だけでない暮らしができるよう支援を続けている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本のご家族の協力を受けながら通院しているものの、医師への報告事項については直接看護師が連絡を入れることもある。ご家族に代わり通院支援をすることもある。</p>	<p>利用前からの主治医に継続して受診している方や家族等が遠方の方などは往診のある医療機関に変更するなど希望に沿ったかかりつけ医となっている。受診の際は看護師からの情報提供があり、結果も互いに共有し連携して健康管理に努めている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>実施できている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>実施できている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に、施設の方針などについては説明を行っている、が重度化していくことが見込まれる場合は随時その状況報告を含めご家族へ相談することとしている。</p>	<p>重度化した場合の指針や看取り介護に関する指針もあり、入居時に説明し同意を得ている。食事が取れないなど状態に変化が見られた場合は、本人にとって最善のあり方、家族等の意向を話しあい確認しながら、同設の特別養護老人ホームへの案内も含め方針を共有して支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	継続して実践力を身に付けていくよう訓練等を重ねていきたい。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の訓練を行っている。地域との協力体制については、更に強化できるような関係づくりに努めていきたい。	隣接する法人施設合同で風水害に備えた総合避難訓練と消火訓練を実施し、これから夜間想定での避難訓練も予定している。防災委員会を中心に事業所ごと訓練シナリオを作成し、事前確認をしてスムーズな流れで行われている。また例年であれば隣接するコミュニティ防災センターでの防災訓練にも参加して防災強化に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な対応ができるよう毎年2月8月に「職員の行動のあり方」について自主点検を行っている。	個別ケアの実現に向けて認知症の研修を重ね、検討会で利用者一人ひとりの思いや特徴、状態を皆で話し合い統一したケアを目指している。「職員行動のあり方」には寄り添う介護に努める指標もあり、自身の振り返りになっている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定できるようなかかわり方ができるよう職員への促しを行っているが、まだ十分にはできていない実態にある。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては職員のペースで物事を進めてしまうことがあるために、職員会議などを通して振り返りを行い改善に努めている。24Hシートを活用し個別ケアに努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前など、一緒に服を選んだり好みの洋服が着れるよう努めている。実施できている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施できている。時々出前をしたり食べたいものを聞いておやつとして食べたりする機会を設けている。準備や片付けなども基本的には一緒に行うことにしている。	法人管理栄養士の献立を本部厨房で調理し、事業所で炊いたご飯と盛り付けに利用者の手伝いをもらって提供している。毎月手作りの「カレーの日」には得意な方が力を発揮し、出前の寿司ではメニューから好きなものを選ぶ楽しみもあって笑顔が見られる食事風景となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定なども含め健康維持の目安として摂取量の把握などに努めている。同法人の管理栄養士に助言を仰ぐなどの対応もできている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に実施することができているが、まだ十分とは言えないため、再度アセスメントしていきたい。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	実施できている。	ほとんどの方が自立しており、職員は見守りや介助、排泄の確認をして記録し、水分摂取や便秘などの対応に努めている。また歩行困難な方には夜間のポータブルトイレ使用やトイレに近い部屋を提供している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実施できている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員体制や安全の確保のために叶わない場合も多く、基本的には週2回決まった曜日に入浴することにしている。しかしながらその日の状況、心身の状態に合わせてできる範囲で柔軟に対応することができるようにしている。	入浴前の健康チェック、身体状況に合わせた補助用具の使用や転倒防止、全身観察など安心安全な介助を心掛けている。スムーズに入ってもらえるよう脱衣所や浴室を温め、苦手な方には畑仕事からお風呂に向う入居前の暮らし方をヒントにするなど職員間の情報共有が活かされている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある過ごし方ができるよう、個々の習慣を確認しながらベッドで休む時間を設けるなどし、苦痛のない過ごし方ができるようにしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更に伴う状態変化などについて医師へ報告し、安定した状態になるまで調整を図ることもある。実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実施できている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を叶えることができるようタイミングを見計らいながら対応している。会話の中から若いころの趣味を聞き出し海や山へ出かけることもある。2021年度には車両を購入したため、これまでよりもより外出の調整が容易にできるようになったが、感染症対策にて見合わせになる場合も多くなっている。	車両導入から天候に恵まれた時期のドライブが容易となり、コロナ対策をしながら少人数に分けて花見や紅葉狩りを楽しんでいる。日常的には事業所周りの散歩や畑仕事、近くのコミュニティセンターの花を眺めに行ったり、通院時に家族と昼食や温泉に出かけたりしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理はリスクが高いと考え預り金として施設でお金を預らせていただいている。買い物の際には、本人が買い物をしたとの気持ちを持っていただけるよう支払い動作などについても今後本人に任せていきたい。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施できている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に季節にちなんだ装飾品を作ったり、行動の把握ができるようその方個人が必ず行き来する廊下に予定表や時計を置くなどいろいろな工夫を凝らしている。	リビングには季節毎の装飾を施し潤いのある暮らしと制作意欲に繋げ、一日の流れの表で自身の行動を確認する方もおり、体操やぬりえ、料理など自分のやりたい事、得意な事で一日を過ごしている。水回り・アクリル板・取っ手などの消毒や換気も十分に行い、利用者にもマスク装着を極力要請して感染症対策している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座れるようになっていたり、畳の空間があるなど、ハード面でも居場所作りがしやすい作りになっている。しかしながら活用できていない実態にあるため、有効な空間づくりに取り組んでいきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>実施できている。家族にも相談しながら設えていくことが多い。</p>	<p>ベッド・クローゼット・洗面台があり、寝具はリースを利用している。使い慣れた物や家族写真などを飾り、思い思いに自分の部屋として過ごしている。起き上がりがわかるセンサーベッドの使用や夜間のこまめな巡視で安心と安全を確保している。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「居室からトイレが近い、わかりやすい角部屋」など個人に合わせ居室の割り振りを行っている。また扉などに張り紙をすることで、場所を認識しやすくなるようにしている。</p>	/	/